

第75回「社会を明るくする運動」3地区合同ミニ講演会

日時：令和7年7月31日(木) 19:00～20:15

会場：元新洞小学校 1階 第2会議室

講題：『「学びたい」という願いにこたえること』～京都市立洛友中学校の取組を通して～

講師：間野郁夫 氏（京都市教育相談総合センター参与）

今回も、新洞・川東、岡崎、吉田・聖護院の3地区合同でのミニ講演会としました。

講師に京都市教育相談総合センター参与の間野郁夫氏をお迎えして、『「学びたい」という願いにこたえること』～京都市立洛友中学校の取組を通して～ と題してご講演いただきました。

【講師略歴】

1984年 社会科教員として京都市立中学校に採用される。

2016年 主任指導主事として、京都市総合教育センター研究科に着任。

2017年 不登校を経験した学齢生徒が学ぶ昼間部（学びの多様化学校）と様々な事情で義務教育を受けることができなかった、あるいは十分に学ぶことができないまま卒業した生徒が学ぶ夜間部（夜間中学校）を併設する京都市立洛友中学校に校長として着任。以後8年間にわたり、世代や国籍を超えて、ふれあい学びあう学校づくりに努める。

2025年 京都市教育相談総合センター参与に着任。

【内容】

*洛友中学校の紹介

1947年に洛友中学校の前身である郁文中学校が開校されてからの沿革をお話いただきました。

2007年に郁文中学校が下京中学校に統合されることで3月に閉校となりましたが、学びの多様化学校（不登校特例校）に指定された洛友中学校が4月に開校されました。

二部学級（夜間部）と不登校特例校（昼間部）を併設しており、昼間部生徒と夜間部生徒とが、世代や国籍を超えてふれあい学びあうことが、めざす学校の姿です。

*今日の課題と取組

国勢調査の統計グラフからコロナ禍以降に不登校児童生徒数の増加が顕著になっています。

学びの多様化学校（不登校特例校）や公立夜間中学校の必要性が増していることから、全国にその開設が進んでいますが、まだまだ不足している現状が分かりました。

*洛友中学校昼間部について

不登校相談支援センターへの相談から始まり、その生徒に合う学習室の提案や洛友中学校昼間部への転入学など様々な支援の紹介がありました。

また昼間部の教育課程（時間割）の説明では、770 時間を基本とするゆとりをもった年間授業
時数や、学年ごとに分かれて学ぶ教科・3 学年みんなで学ぶ時間・2 時間ゆっくりと集中して取り
組む教科など特色ある教育の紹介がありました。

*洛友中学校夜間部について

夜間部の生徒は最長 6 年まで在籍できるよう。在籍年数・年齢構成・国籍別の生徒数の説明が
あり 20 名の生徒が年齢も国籍も様々であることがよく分かりました。

夜間部の教育課程（時間割）は、教科によって日本語の習得程度等を考慮した 4 学級編成であつた
り、学力を考慮した 3 学級編成であつたり、また日本語補習学習や進学補習の時間があることが特
色です。

*ふれあい学びあう学校として

時間割の中に、昼間部と夜間部がともに学ぶ時間が組み込まれています。

昼間部生徒にとっては、夜間部生徒が真剣にそして楽しく学びに向かう姿に接する時間であり、
夜間部生徒にとっては、中学生を実感する時間であり、お互いに刺激になっているようです。

また学校行事も昼夜間部合同ですものも多く、文化祭や修学旅行など楽しい記念写真を見せてい
ただきました。

昼間部と夜間部の良さを生かし、世代や国籍を超えてふれあい学びあう学校として、また「学びたい」
という生徒の願いにこたえる学校として、洛友中学校の果たす役割は大変大きなものであると実感
できる、素晴らしいご講演でした。

主催：新洞・川東、岡崎、吉田・聖護院 地域保護司（左京区保護司会）

協力団体：新洞連合会、社会福祉協議会（新洞・聖護院）、新洞学区民生児童委員協議会、新洞女性会、
川端少年補導委員会（新洞支部・川東支部・岡崎支部・吉田支部・聖護院支部）、左京南地区更生保護
女性会、新洞子どもネットワーク会議

【参加保護司】12 名

信ヶ原雅文 梶田大介 橋本周現 中林五月 中井京子 三品美紀 福田雅和 堀内寛昭
村上ますみ 久保優佳 佐藤恭子 鈴木美智子

【保護司以外の参加者】19 名

左京南地区更生保護女性会 2 名・新洞女性会 8 名・新洞連合会 1 名・少年補導委員 2 名・
民生児童委員 1 名・一般 5 名

参加者総計 31 名

地域幹事：信ヶ原雅文 梶田大介 鈴木美智子

文責：鈴木美智子

